

以下、本文-----

## 耐糖能異常の日本人における分岐鎖アミノ酸、チロシンの役割の解析

### 1. 研究の対象

2012年4月から2014年4月までの期間実施していた研究「耐糖能異常の日本人における分岐鎖アミノ酸、チロシンの役割の解析」に同意いただいた方

### 2. 研究目的・方法

分岐鎖アミノ酸、チロシンは全身に循環している。分岐鎖アミノ酸、チロシンはインスリン感受性を制御しており、2型糖尿病患者においてもインスリン感受性との連関が報告されている。しかし、耐糖能異常の人間において、分岐鎖アミノ酸、チロシンの病態生理学的な役割は不明である。本研究では、種々の耐糖能の人間において、分岐鎖アミノ酸、チロシンと糖代謝の連関を解析する。研究期間：倫理委員会承認日～2021年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

承認番号:23-43;研究課題名:「血漿マンノースは、日本人において、糖新生、耐糖能の予測指標となる」。2012/4-2014/4の間、過去に耐糖能異常と診断されたことがなく、血糖降下薬を服用していない75人の日本人を対象に75g経口糖負荷試験(OGTT)を施行した。[年齢:65±11平均±SD); 男性/女性:34/41;BMI:24.9±3.8]。被験者は正常型(NGT),境界型(IGT),糖尿病型(DM)に分類した(各群25名)。血漿マンノースを測定し、各腫糖代謝指標との連関を解析した。今回、23-143で承認を受けた75人(正常耐糖能25人、耐糖能異常25人、2型糖尿病25人)の既存血清を用いて、分岐鎖アミノ酸、チロシン等を測定し、insulinogenic index、QUICKI、Matsuda index、disposition index等を算出し、多変量解析を行う。

### 4. お問い合わせ先

高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科 助教 船越生吾

研究責任者：

高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科 教授 藤本新平

-----以上